



夫婦2人の思い出を記念に残したい

profile

昭和5年8月1日生まれ。趣味は短歌とお茶を煎じること。清水区在住。89歳。

Spotlight

スポットライト



初の短歌集「二輪草」を制作 菅原光子さん

「短歌は、日記をつけるのよ
うな感覚で、短い言葉で
想いをまとめることができま
す。自分の五感を働かせるこ
とができて楽しいです」

短歌の魅力を語るのは、自
身初の短歌集「二輪草」を制
作した菅原光子さん。

短歌教室の先生に相談し、
「夫婦2人の思い出や過去の
記録を記念に残したい、自分
の子どもたちにも読んでもら
いたい」という気持ちから今
回制作することになりました

た。

菅原さんは利尻島の出身、
看護専門学校で看護師の資格
を取得し旭川赤十字病院に勤
務、21歳のときに伊達赤十字
病院に転勤し、助産師の資格
を取得しました。結婚後、旦
那さんの転勤で愛知県に引っ
越し、旦那さんの定年退職
後、伊達赤十字病院に復職し
ました。旦那さんが亡くなっ
て、4年前から洞爺湖町に住
み始め、「窓から見える景色
は生まれ育った利尻島の景色

にそっくりで、一目惚れしま
した」と言います。

短歌を始めたきっかけは、
旦那さんが俳句を作るのが好
きだったことや、周囲の誘い
もあって30年ほど前から夫婦
で始め、白樺短歌会に入会。
現在でも新聞や機関誌への投
稿を行っています。

「自分の記録や自分の気持
ちを凝縮して想いを伝えるた
めに毎日短歌を作るのが生き
がいです。子どもたちのこと
を考えながら短歌を作ると昔
のことが甦り、心が豊かにな
ります」と楽しそうに語りま
す。

ふと、短歌集を読み返した
とき、介護をしていた旦那さ
んの短歌の中に、自分への感
謝の気持ちを綴った歌を見つ
けたときは、とてもうれし
かったと目を細めます。

「今回の短歌集に載せてい
ない歌もたくさんあります。
いつまで短歌を作れるか分か
らないけれど、これからも頑
張っていききたいです」と次の
短歌集の制作に意欲を見せて
います。

東奔西走



高 齢者運動会の取材してきました。町内には元気な高齢者
がたくさんいます。今回の運動会も参加者・応援の人を
含めて156人の参加となりました。楽しくスポーツをする姿
を見て、私も体を動かしたいと思いました。(C.K)
雪 虫を見かけることが多くなりました。雪のたよりはすぐ
近くまで来ているのでしょうか。段々と寒くなりますが、
体調には十分気をつけましょう。(M.O)

今月のワンショット



黄色い旗の波運動で交通安全を
呼びかける子どもたち